

県外派遣報告書

審判員名	清水 実咲	所属	U15
大会名	関東U15部会所属 審判クリニック		
期間	2024年2月23日(金)～24日(土) (参加日:2月23日・24日)		
会場	塩浜市民体育館		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
2月 19日	開講式、講習会	ZOOM会議 参加者自宅他	
2月 23日	関東U14DC交流試合(女子)	塩浜市民体育館	
2月 24日	関東U14DC交流試合(男子)	塩浜市民体育館	
会議 講義 内容			
<p>東京都審判委員長の草野氏より、「積極的に参加をしてほしい。決して良い恰好をしようとするのではなく、日頃の力を発揮してほしい。」「講師の方々や各県の委員長に質問を積極的にすること。」と最初にご挨拶を頂いた。</p> <p>講師の藤代氏、若林氏より、関東クリニックを迎えるにあたってレクチャーを頂いた。概要は以下の通り。</p> <p>○藤代氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分がどんな審判員を目指しているのか」を大事にしてほしい。 ・クルーの中でコミュニケーションをとりながら、自分の持ち味を十分発揮してほしい。 ・仲間を作って、各所属県を盛り上げてほしい。 <p>○若林氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なぜ審判をやっているのか」。若林氏の場合は、仲間と審査会を受ける中で悔しい思いを何度もしたり、同じライセンスの仲間が増えて負けたくないと思ったりして、上級を目指すようになった。 ・メカニクス、IOT、プレーコーリング、プレゼンテーションの4項目の中で、若林氏が考える最も大事な項目は「プレーコーリング」。 ・今回のクリニックのテーマは「寄り添う」。審判が寄り添うのは、選手、ベンチ、クルー(TO)、保護者、観客に対してだが、誰に対しても重要なのが「プレーコーリング」。ファウルやバイオレーションに関して、適切にルールブックに則って判定することが大切である。 ・全審判員が同じ判定はできないが、同じような判定はできる。 <p>→ヒント①「選手、チームの特徴の把握」 プレゲームカンファレンスで、スピード、シューター、ビッグマン、すぐ倒れる、プレス、カッティング、小さいチーム、アピール、怖いコーチ、などについて情報共有する。</p> <p>→ヒント②「ゲームフローの把握」 テンポセット、タイムアウト、交代、チームファウル、点差、EOQ、EOG、ナチュラルインターバル、インテンシティ、などについて、ゲーム中に気付き、把握する。</p>			
実技			
期 日	2月23日(金) U14DC女子		
<p><対戦カード> 千葉 vs 山梨(U1)</p> <p><相手審判> CC:新井 のどか氏(群馬) U2:白銀 菜々氏(千葉) <主任> 草野 申明氏(東京)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ローテーションが崩れそうな場面があったが、3人で目を合わせながら修正できていた。 ・TOに寄り添うという意味では、スローインやスリーポイントのフラッシュなどはTO席に近い方の手を挙げると、TOにもクルーにも分かりやすくてよい。 ・センターやリードの時にボールを見ていることが多いので、他のクルーを信頼して、思い切ってボールから目を切ることも大切。自分のプライマリのマッチアップを気にしたり、ベンチ目線でプレーを見たりすると、自然とボールから目を切ることができるようになる。 ・トラベリングの判定は、選手に伝えるという意味では選手の方を見ながらジェスチャーを出せるとよい。 			

<対戦カード>群馬 vs 神奈川(CC)

<相手審判> U1:白銀 菜々氏(千葉) U2:新井 のどか氏(群馬) <主任> 若林 哲氏(埼玉)

・3人のローテーションが重たい時があった。ボールがミッドラインの端にある時には、セットアップポジションではなくクローズダウンポジションにいて、ボールがミッドラインを超えたらすぐにスイッチサイドできるとよい。スイッチサイドした後に逆サイドにボールが振られたとしても、センターが見ていてくれるはず。

<対戦カード>東京 vs 茨城(U2)

<相手審判> CC:白銀 菜々氏(千葉) U1:新井 のどか氏(群馬) <主任> 荻野 健氏(山梨)

・プレーコーリングについては、3人ともよかった。

・ローテーションに関しては、ピンチザペイントをもっと有効に使って、そこからスイッチサイドするのか、我慢してバックペダルを踏むのか判断出来るとよい。

・ゲーム終盤、スローイン直前で交代しようとしていたベンチに気付かないことがあった。1日の最終試合で選手も疲れがあるなど、チームに寄り添うことが大切。TO席付近への気配りができるとよい。

・リードの見方がベースラインと平行になっていたことが何回かあった。常に45度の角度を保ったまま見られるとよい。

期 日

2月24日(土) U14DC男子

<対戦カード>千葉 vs 茨城(U1)

<相手審判> CC:三沢 奈央氏(山梨) U2:白銀 菜々氏(千葉) <主任> 栗田 賢吾氏(神奈川)

・男子ゲームに女性3名という割当だったが、フィットネス的にも問題なく、3人それぞれが自分のプライマリのものを力強く判定できていた。

・ゲームが終盤まで接戦だったからこそ、3or2の確認をもっと丁寧に行けるとよかった。特に男子は速い展開が多い中で、ニュートレイルが追いつかない時にはニューリードやニューセンターがフラッシュしてあげるとグッドクルーワークにつながる。

・リードの3Pの見方は、もっと分かりやすく体を開いて、足を運んで見に行くようにする。

・スローイン前、笛を入れたほうがいいケースもある。(交代で時間がかかった時、少し引き締めたい時など)

<対戦カード>東京 vs 栃木(CC)

<相手審判> U1:白銀 菜々氏(千葉) U2:三沢 奈央氏(山梨) <主任> 林原 潤氏(千葉)

・センターからセカンダリで判定できていたのはよかった。

・1QのEOGはオポジットで5秒以内でプレーがあったため、TO席側のセンターが鳴らすべきだった。

・3Q東京の速攻の場面。UFになりそうな場面をNFで判定し、ベンチからアピールがあった。ファウルの後の倒れ方も大きく、UF(C2)にしてよかった。少しでも迷ったのであればすぐにコールせず、他のクルーを呼び、話し合ってもよかった。

<対戦カード>群馬 vs 埼玉(U2)

<相手審判> CC:白銀 菜々氏(千葉) U1:三沢 奈央氏(山梨) <主任> 荻野 健氏(山梨)

・チームファウルの把握がもっとできるとよかった。ボーナスになる場面では、コールするクルー以外はすぐにフリースローのラインナップができるように準備をする。審判員はスピードアジャスターでもあることを忘れず、いつでもスムーズなゲーム運営を心がけること。

全体の感想

この度は、U14関東近県交流大会へ派遣していただき、ありがとうございました。今回、初めて他県の方々と交流させていただき、一審判員として大変刺激を受けました。

この二日間、各県の上級審判員の方々に直接ご指導いただく中で、今回のクリニックのテーマである「寄り添う」ことの大切さを改めて実感することができました。特に、ゲームフローの把握が課題であると感じました。試合中に1つでも多くの気付きができるように、色々なところに目配り気配りをして「寄り添う」ことのできる審判員になれるよう、今後の審判活動にさらに力を入れていく所存です。

最後になりますが、開催県である千葉県バスケットボール協会の皆様、講師の藤代様、若林様をはじめとした審判員の皆様、今大会へ派遣して下さった埼玉県バスケットボール協会、また日頃からご指導してくださっている皆様へ心より感謝申し上げます。今後とも、ご指導のほどよろしくお願いいたします。